

活動状況報告（3月）

学生留学コース 5期生 酒井 友希

3月はまだ気温が低く、アパートの前には留学生が作ったクリエイティブな雪だるまを発見することがありました。1月から現地の Ounasvaara スキー場でスキーインストラクターのバイトをし、週末にはバスがないため1時間弱自転車で向かいました。そのため、髪の毛は雪で氷白髪のようにになりました。ラップランドの冬は氷点下の日が多く、道の雪が溶けず、ただ硬い砂のような道路で安全に自転車に乗ることができます。スキーレッスンで担当するお客様は、イギリス、ドバイ、シンガポール、中国出身の方が多く、ロヴァニエミを訪れる観光客の皆様は、オーロラとサンタクロース村を目指す人が多いようです。

3月の初めに、初めて犬ぞりの体験をしました。前学期の CSR 社会的責任と倫理の授業で、犬ぞりの会社を訪問し、ハスキー犬たちがどのように責任を持って世話されているかを説明してもらいました。今回はお客として楽しんだのですが、ハスキー犬たちがきちんと世話を受けているという説明を聞いて安心しました。サービスを提供する会社が動物をどう扱っているか、私と友人も気になっていました。また、日本との違いは、私たち客が自分たちでそりを操作したことです。出発する前には、体重移動でそりを動かし、万が一前にいる人が落ちた場合はうまく避けて前に進むようにレクチャーされました。もちろん、安全な速度で楽しみましたが、スリル満点の体験でした。

3月中旬に開催された Arctic Pride Week は、性的マイノリティの人権について考える1週間のイベントでした。大学の前にはLGBTQのレインボーフラッグが掲げられ、日本の大学でこのような光景を見ることがまだまだ先のような気がしました。プライドウィークの期間中は、スピーチ、クラフトアクティビティ、ドラッグクィーンショーなど盛りだくさんのイベントが毎日開催されました。授業などがあったため、あまり参加できませんでしたが、最終日のプライドマーチには参加しました。市内まで1kmほど皆で歩き、穏やかにマーチをしました。このマーチを通して、日本でも性的マイノリティを考える機会があることや、札幌でのプライドマーチの有無について考えるようになりました。帰国後には札幌のレインボーマーチに参加しようと思っています。



